

## 2011 年度前期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —経済学部—

経済学部長 杉 本 義 行

今回、経済学部開設科目のうち前期の授業評価アンケートの対象となったのは 38 科目ですが、そのうち 34 科目について延べ 1,628 名の経済学部生のみなさんからアンケートへのご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

今回、初めての試みとして各学部・研究科ごとに集計されたアンケート結果についてそれぞれの長がコメントするように FD 委員会から要請がありました。そこで、コメントを作成するにあたっては、本学部全体の集計結果はもちろんのこと、参考のために 34 科目すべての科目ごとの個別集計結果についても目を通しました。

まず、今回のアンケート結果を見ると、対象科目の「総合評価」の学部平均は 5 段階評価で 4.04 と概ね良好な結果であったと考えます。個別科目の結果をみると、5 や 4.5 以上の高い評価も散見され、科目間での評価のばらつきについては、記述統計でいう「箱ひげ図」に示されているように大きくはありません。

総合評価との相関係数でみると、「当該分野への関心と学力が得られた」という項目が一番高くなっています。よい授業とは、たんなる満足度だけでなく、どれだけ関心が深まり学力が伸びたかも重要な要素であるといわれていますが、そうしたことが読み取れる結果となっていると考えます。さらに、「教員の熱意」、「話し方の明瞭性」、「授業時間の有効利用」、「シラバスとの一致」、「板書の文字」などとの相関が高いことが示されています。これらの項目との因果性については慎重に考える必要がありますが、私たち教員が授業をす

るにあたって注意すべき重要なポイントが示されていると思います。

授業評価アンケートはいうまでもなく、授業の質の向上のためには不可欠なものです。今回の結果を踏まえ、私自身もふくめて担当教員は改善すべき点に留意することはもちろんですが、授業の一層の質向上のために今後、学部全体としてどのような取り組みができるかを検討したいと考えています。